

Color scape of behavior

一色彩の表記法に基づいたストリートスケープによる新たな空間構成論からなる提案

Background・Purpose 0

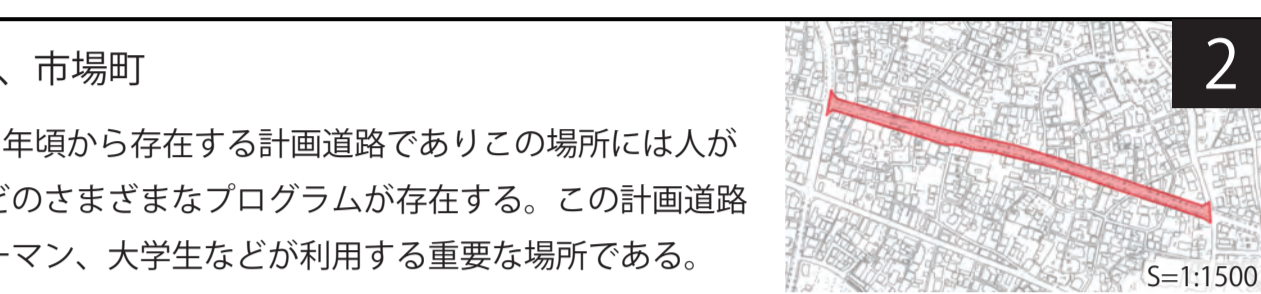
近代主義の建築、あるいはモダニズム以降の建築は漂白され、街中に白い建築が増えていった。しかし日常生活には要素と色があふれており、白い建築により断絶されていると考えた。本研究の目的は、色彩の表記法に基づいたストリートスケープによる新たな空間構成論の考案であり、具体的には歩行者空間を利用する人の行為・行動とストリートスケープの要素間における感覚および色彩との関係性との記述を通して新たなプロトタイプを導出する。

Notation of the colour 1

建築・都市空間における色彩の表記に関して国内外においては、アルバート・H・マンセルが提唱したカラーシステムが広く用いられている。ここでのマンセル・カラーシステムとは顔色系の代表的な表式系であり色相・明度・彩度から構成されている。一方で、実際の歩行者空間における人の行為・行動や活動を補綴する、あるいはそれらを相互補完する色彩・感覚・要素の関係性の構築には至っていない。そのため、本研究ではそれらを構築し、今回新たに展開するためにマンセルのカラーシステムで色自体を見分ける色相と日常を常に変化させる明度に着目する。

Site analysis 2

愛知県半田市にある一つの計画道路を対象地とする。本エリアは1960年頃から存在する計画道路でありこの場所には人が少なからず集う交番、公園、銀行があり、古き良き豆腐屋、八百屋、などのさまざまなプログラムが存在する。この計画道路は住民、小中学生の通学路、計画道路先にある乙川駅を利用するサラリーマン、大学生などが利用する重要な場所である。



Method 抽出と抽象化 ~Color Extraction and Abstraction as a New Spatial Composition Theory Proposal~ 3

新たな空間構成論の提案として色彩の抽出・抽象化を試みる。色彩の抽出・抽象化を記録する際に内、外、内と外の3つの空間に分けた後、開口、外壁、屋根、道路、電柱・街灯、その他、植栽、塀の8つの要素に分け、この要素に対して空間の構成論として抽出することで色彩の表記法としての抽象化を試みている。抽象化した色をパレット化し、色相に入れ込むことで色の地域性を探る。

内 開口部 屋根
外壁 外 電柱・街灯 道路 その他
植栽 塀・フェンス

屋根 Roof
外壁 Outer wall
開口 Aperture
塀 fence
植栽 plants
電柱・街灯 telepole
その他 other
道路 road

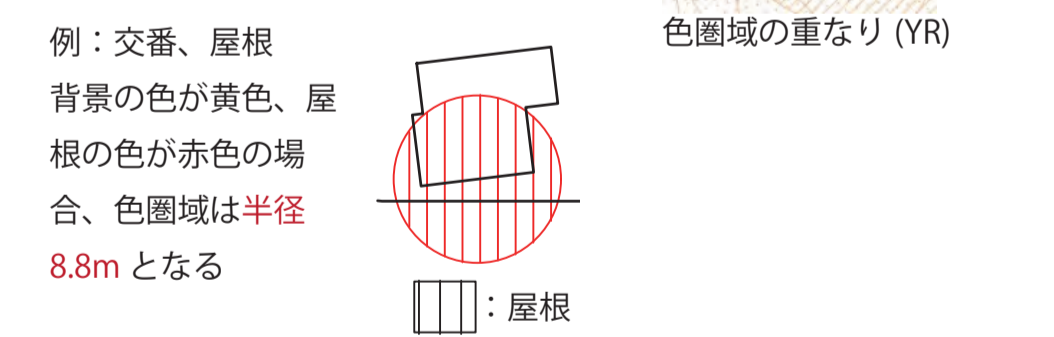
3-1.Colour Areas・Placement

色彩の表記法の考案、ストリートスケープによる空間構成論を並列に扱うために有彩色の視認距離を色圏域と表し、実の距離に落とし込むことで平面状にそこにある色をプロットし、空間化する。

色	R	YR	Y	GY	G	BG	B	P	RP
赤	0	29	80	87	38	12	23	29	30
黄	30	0	50	58	09	42	84	80	37
緑	82	80	0	108	44	94	108	114	114
青	88	50	07	0	50	98	111	118	105
紫	38	08	38	50	0	50	63	66	65
白	12	42	93	100	80	0	13	20	20
黒	24	54	108	111	82	12	0	05	06
黄	30	60	112	118	68	20	05	0	02
緑	30	60	112	118	68	20	05	0	02
青	36	66	118	127	74	28	12	08	07
紫	14	42	84	100	52	27	05	18	18

有彩色の組み合わせによる視認距離

提案の配置では色圏域の重なる部分にその場に適した色彩と要素を計画することでより強調し、より意識的になるようにする。その時に人の動線とその際のふるまいに着目する。



3-2.Concept model

1. Adding a rest area
The B and Y elements and colors represent the eye connection. The color extends the behavior in the area.

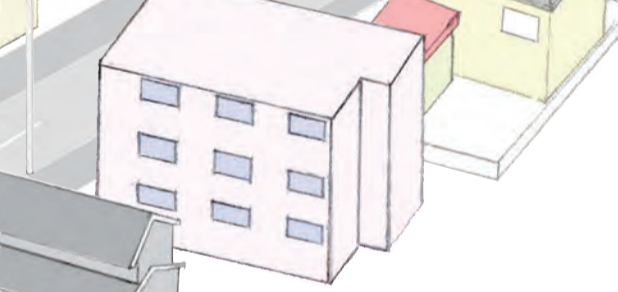
2. Orange crosswalk
At this location where many elementary school students pass through, the color change of the crosswalk stops drivers from looking at it.

3. Installation of plantings
After analyzing the flow line of passers-by, install plants according to the program; G plantings create a flow of people and have a calming effect.

4. Purple roof
Passersby look at what they are eating inside the cafe. The roof, set up in response to the layout of the restaurant, becomes a mysterious space.

3-1.Colour Areas・Placement

色彩の表記法の考案、ストリートスケープによる空間構成論を並列に扱うために有彩色の視認距離を色圏域と表し、実の距離に落とし込むことで平面状にそこにある色をプロットし、空間化する。



Target 5

本提案では最初に対象を利用者の中で色彩に直接関わりとされる色覚障害 (1型色覚、2型色覚、3型色覚) に対する提案としている。色覚障害の人にとって重要なことは色の連続性だと考える。色の連続性は機能面において視認性、安全性と結びつく。人によって色の欠如が違うこともあるが (黄)、 (青) が色覚障害の人にとって見やすい色である。Y、Bについて考察後の提案を基盤とし多様な利用者に対しても提案を行う。

Looking・Seeing

特徴的な建物を見るとして見る行為を (注目して見ている：Looking)、 (見えている：Seeing) に分ける。 (Looking) では視線を可視化し、抽出する。 (Seeing) では抽出した視線を抽象化し、空間化する。

1. (Looking) では最初にYの要素をプロット、視線の流れを可視化
2. 視線の交差として新たな色を置くきっかけとなる場所として交点のプロット
3. 交点同士に接している視線の接続の記述、線情報を空間化し観点を絞り要素としての確立を図る
4. (Seeing) ではYの要素から要素へ各領域の記述、各領域のレイヤーを重ねる
5. 重なった領域を記述する
6. (Looking)、 (Seeing) のレイヤーを重ねることで、新たな要素の配置場所の確立を図る
7. 同様にBも行う
8. Y、Bの (Looking)、 (Seeing) を重ねることで視線としての検討とする

Colour impressions, effects and tactics

色には印象や感情を感じるとされている。色の印象・感情と戦術を繋げるために、色を R・YR、B・Y、GY・G・BG、PB・P・RP 4つのグループに分け色とその効果から戦術として R・YR→addition：元気が出る、人と人が会話をするような空間の追加 B・Y→sequence：色覚障害の人に対する色の連続性、GY・G・BG→vector：緑の流れにより自然と安らげるような空間、PB・P・RP→extension：建物から拡張される内外を繋げる神秘的な場、change：場所に応じた色の変化等を加える。

色	色に対する印象・感情	戦術
R	歓喜、活力的、興奮	addition+change
YR	喜び、はしゃぎ、元気	
GY	安らぎ、寛ぎ、平静	vector+change
G	安息、涼しさ	
BG		
PB	神秘、崇高	extension+change
P	神秘、優しさ	
RP		
B	落ち着き	sequence+change
Y	活気、元気、はしゃぎ	



Signe configuration

4-1.新旧合致の仕方
言語をシーニュ (記号) と考えた場合、言葉で表される対象 (=意味するもの) と表現された対象 (=意味されるもの) とが存在する。表現的である「意味するもの」をシニフィアンと呼び、内容的である「意味されるもの」をシニフィエと呼んだ。シニフィエ的要素 (旧) とシニフィアン的要素 (新) が合致して相互依存的になることによって要素が成立する。具体的には既存の柱に新たな屋根を付け加えることで意味するもの、意味されるものとなることを構成論とする。

赤：シニフィエ的要素 (旧)
青：シニフィアン的要素 (新)

既存の外壁に新たに屋根をつける
既存のフェンスに新たにフェンスをつける

Epoché spatial

4-2. 領域、現象の転用的可能性
エポケー的空間：領域、現象の転用的可能性
エポケーとは、世界が客観的に存在しているという前提をいったん中止することをさす。自然的態度で立ち現われてくる確信をひたすら取り上げてどこかに置いておく。これはしばしば「カッコに入れる」と表現され、専門用語では「エポケー (判断中止)」と言われる。具体的には階段、実際は垂直移動する場所であるが座ったりものを置いたりなどのふるまいも見られる。エポケー的空間ではその場所での異なる多様な使われ方が行われる際の概念として導入される。

屋根の下
1. 雨宿りする
2. スマホをいじる
3. 人待つ

階段
1. 垂直移動する
2. 座る
3. ものを置く

Spatial configuration

シーニュの構成→エポケー的空間空間を構成するに当たってフェルディナン・ド・ソシュールの言語学、エトモント・フッサールの現象学を建築的に解釈する。具体的にはソシュールではシーニュに着目し、フッサールではエポケーに着目した。

ISOMETRIC S=1/400

Looking・Seeing

特徴的な建物を見るとして見る行為を (注目して見ている：Looking)、 (見えている：Seeing) に分ける。 (Looking) では視線を可視化し、抽出する。 (Seeing) では抽出した視線を抽象化し、空間化する。

Colour impressions, effects and tactics

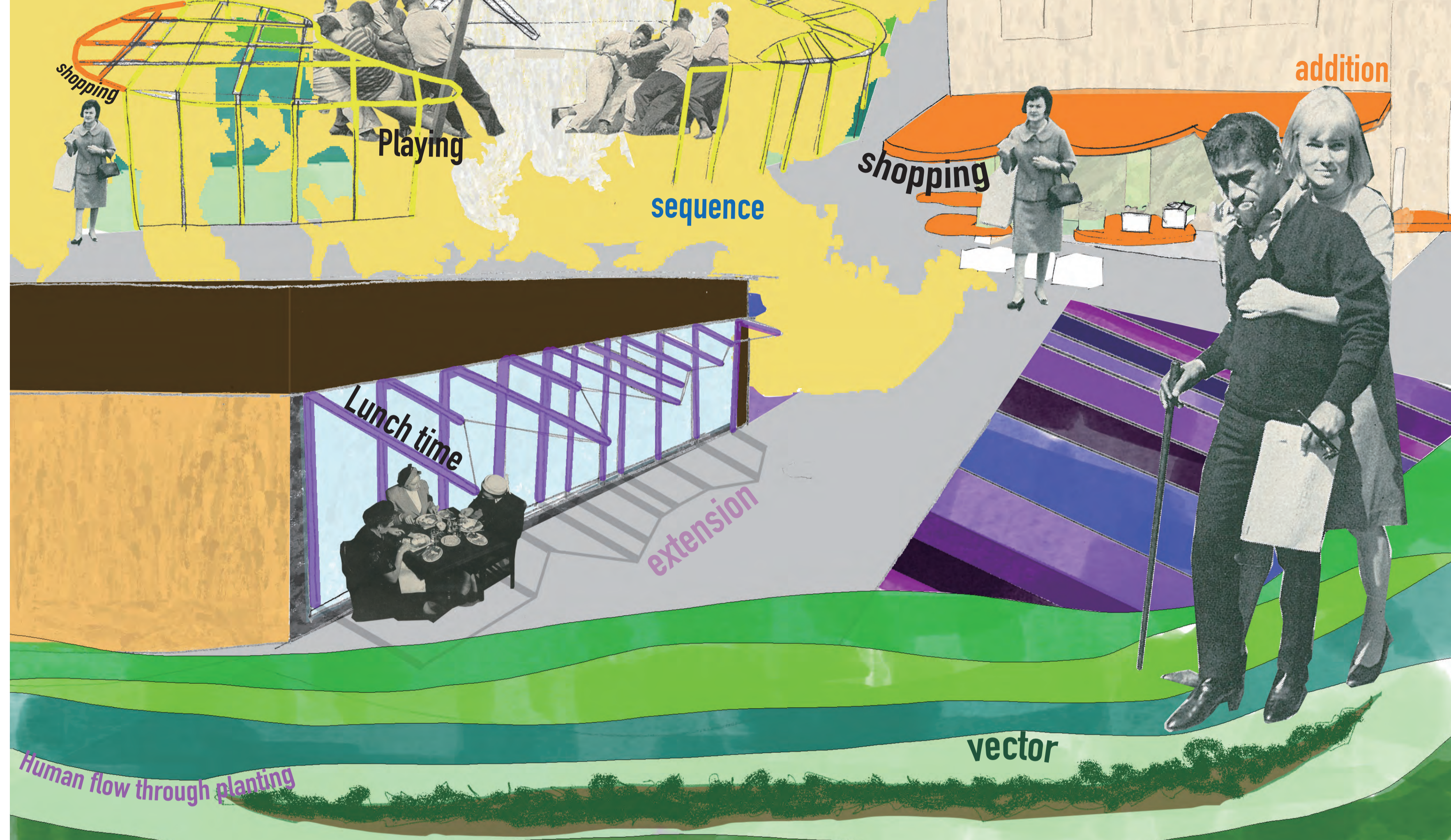
色には印象や感情を感じるとされている。色の印象・感情と戦術を繋げるために、色を R・YR、B・Y、GY・G・BG、PB・P・RP 4つのグループに分け色とその効果から戦術として R・YR→addition：元気が出る、人と人が会話をするような空間の追加 B・Y→sequence：色覚障害の人に対する色の連続性、GY・G・BG→vector：緑の流れにより自然と安らげるような空間、PB・P・RP→extension：建物から拡張される内外を繋げる神秘的な場、change：場所に応じた色の変化等を加える。

色	色に対する印象・感情	戦術
R	歓喜、活力的、興奮	addition+change
YR	喜び、はしゃぎ、元気	
GY	安らぎ、寛ぎ、平静	vector+change
G	安息、涼しさ	
BG		
PB	神秘、崇高	extension+change
P	神秘、優しさ	
RP		
B	落ち着き	sequence+change
Y	活気、元気、はしゃぎ	





COLOURS AND TACTICS



COLOUR EFFECTS OR ELEMENT EFFECTS OR BEHAVIOUR EFFECTS?



IT IS BELIEVED THAT COLOURS GIVE US IMPRESSIONS AND FEELINGS. IN ORDER TO CONNECT THE IMPRESSIONS AND FEELINGS OF COLOURS WITH TACTICS, THE COLOURS ARE DIVIDED INTO FOUR GROUPS: R-YR, B-Y, GY-G-BG, PB-P-RP4.

R · YR → ADDITION: TO ADD ENERGY, TO CREATE A SPACE WHERE PEOPLE CAN TALK TO EACH OTHER. B · Y → SEQUENCE, CONTINUITY OF COLOUR FOR PEOPLE WITH COLOUR BLINDNESS. GY · G · BG → VECTOR: A SPACE THAT MAKES PEOPLE FEEL AT EASE NATURALLY BY THE FLOW OF GREEN, AND PB · P · RP → EXTENSION: THE MYSTERIOUS PLACE WHICH CONNECTS INSIDE AND OUTSIDE EXTENDED FROM THE BUILDING. PB, P, RP → EXTENSION: MYSTERIOUS PLACE TO CONNECT INSIDE AND OUTSIDE, CHANGE: ADD COLOUR CHANGE ACCORDING TO THE PLACE.

THE PROPOSED LOCATIONS ARE PLACED IN THE OVERLAPPING AREAS OF THE COLOUR AREAS, BUT THEY ARE EXTENDED IN SUCH A WAY THAT THEY BECOME MORE PRONOUNCED AND CONSCIOUS. THE PROPOSED LOCATIONS ARE PLACED IN THE OVERLAPPING AREAS OF THE COLOUR AREAS, BUT THEY ARE EXTENDED IN SUCH A WAY THAT THEY BECOME MORE PRONOUNCED AND CONSCIOUS.

AN ATTEMPT TO RECONSTRUCT A NEW STREETScape BASED ON COLOURS, ELEMENTS AND BEHAVIOUR